

明石市公共下水道事業長期収支見通し（経営戦略・概要版）

1 趣旨と位置づけ

本市の下水道事業は、これまでの施設の普及拡大の時代から、インフラ更新需要を踏まえた維持管理という経営の時代へと転換期を迎えています。

本市では、下水道使用料収入の減少、施設の老朽化など経営環境が厳しさを増す中、事業・サービスの提供を安定的に継続できるよう長期的な視点に立った経営を行うために、10年間の投資と財源の収支である長期収支見通しを推計しました。

なお、この内容は、平成28年1月に総務省から通知された『経営戦略』の策定推進について」に沿った「経営戦略」として位置づけるものであり、議会・市民に対し公開することとされています。

2 計画期間

2018年度から2027年度までの10年間

3 前提条件

- ① 下水道使用料（税抜）を増額改定せずかつ一般会計繰入金を削減する。
- ② 下水道事業の国庫補助制度を活用する。

4 現状と課題

昭和46年に本格的な事業運営に着手して以来、管渠網の拡充と浄化センターやポンプ場の整備を進め、平成29年度末には普及率が99.5%まで向上し、下水道管布設延長は1,008km、4浄化センターと6ポンプ場を有する規模となっていますが、最初に建設された船上浄化センターは47年が経過し、法定耐用年数（50年）を超える管渠も今後急速に増加していきます。

5 経営の基本方針

持続可能な下水道の構築に向けて、以下の方針に基づき経営を行っていきます。

- ① 計画的・重点的な改築更新を行い投資の平準化と施設の延命化を図り、下水道機能を安定的かつ継続的に維持すること。
- ② 市民生活に影響を与えないよう良質で安定したサービスを提供すること。
- ③ 維持管理の効率化や企業債の削減を図り経営基盤を強化すること。

6 取組事項

（1）広域化・共同化・最適化に関する事項

広域化・共同化については、平成 29 年度から下水道法による協議会として全市町が参画する兵庫県生活排水効率化推進会議において検討を行っていきます。

施設規模の最適化については、社会動向や水需要などを十分に見極め、検討します。

(2) 投資の平準化に関する事項

投資の平準化を行うため、下水道施設を一体的な資産と捉え、下水道施設の持続的な機能確保とライフサイクルコストの最小化を目指す経営管理手法であるストックマネジメントを導入します。

また、これとあわせて計画的な点検・調査・修繕・改築を行い、施設の長寿命化を図っていきます。

(3) 民間活力の活用に関する事項

PPP/PFI 手法について検討し、デザイン・ビルド (DB) 方式、デザイン・ビルド・オペレート (DBO) 方式など多様な発注方式の導入やさらなる民間活力の活用により、事業コストの削減やより質の高い下水道サービスの提供を目指します。

また、現在導入している包括的民間委託を検証・評価し、対象施設の範囲や設備の修繕といった委託範囲について、拡大の可能性や最適化の検討を行い、委託効果の向上に努めます。

将来的な運営形態として公共施設等運営権 (コンセッション) 方式による民間の資金、運営能力及び技術的能力の活用に関しても、検討を行っていきます。

(4) 下水道使用料に関する事項

未水洗世帯への個別勧奨、広報活動等の積極的な普及啓発活動による水洗化率の向上とともに、不明水等の対策による有収率の更なる改善により、使用料収入の確保を図ります。

7 長期収支の見通し

経営面では、財源となる①下水道使用料 (税抜) 収入は毎年減少し、10 年後には約 3.9 億円の減少を見込みますが、これまでに取り組んできた包括的民間委託等による合理化、職員数の削減及び給与の適正化等による経費削減を継続することで、計画期間中の純利益は総額で約 32 億円の黒字を確保します。②資金残高 は 2023 年度に約 3.4 億円まで減少するものの、その後は増加していく予定です。

投資面では、未普及地域の解消、浸水対策、施設の老朽化対策に重点的に取り組みながら、計画的に企業債の償還を行うことで、③企業債残高 は 10 年後で約 146 億円の減少を見込んでいます。なお、④一般会計繰入金 は毎年減少し、10 年後で約 7.6 億円の減少を見込んでいます。

※主な項目の一覧表

項目	2018年度	⇒	2027年度	減少率
① 下水道使用料（税抜）	46億4900万円	⇒	42億6100万円	8.3%
② 資金残高	15億5300万円	⇒	12億4400万円	19.9%
③ 企業債残高	477億7900万円	⇒	331億5700万円	30.6%
④ 一般会計繰入金	28億7000万円	⇒	21億1100万円	26.4%

8 その他

今後も、投資の平準化や民間活力の活用を検討するなど経営の効率化や合理化に取り組むとともに、経営比較分析表を活用した長期収支見通しの事後検証を行い、「次代へつなぐ持続可能な下水道の構築」を目指した事業を進めていきます。

明石市公共下水道事業 長期収支見通し（経営戦略）

資料

（単位：百万円）

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
収益的収支（税抜）										
1 営業収益	5,824	5,765	5,705	5,660	5,600	5,544	5,493	5,436	5,383	5,349
下水道使用料	4,649	4,616	4,559	4,524	4,474	4,437	4,391	4,343	4,291	4,261
雨水負担金	1,153	1,127	1,126	1,117	1,108	1,089	1,085	1,078	1,078	1,074
その他	22	22	20	19	18	18	17	15	14	14
2 営業費用	7,238	7,169	7,152	7,209	7,218	7,117	7,179	7,070	7,054	6,985
職員給与費	551	551	551	551	551	551	551	551	551	551
経費	1,984	2,054	2,125	2,172	2,197	2,204	2,212	2,219	2,227	2,234
減価償却費	4,703	4,564	4,476	4,486	4,470	4,362	4,416	4,300	4,276	4,200
3 営業外収益	3,032	2,891	2,801	2,780	2,741	2,645	2,655	2,558	2,531	2,482
他会計繰入金	1,116	980	936	909	878	834	817	776	758	740
長期前受金戻入	1,910	1,906	1,860	1,866	1,858	1,806	1,833	1,777	1,768	1,737
その他	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5
4 営業外費用	1,055	1,003	943	885	824	773	738	709	688	673
支払利息	1,044	988	925	865	802	748	710	679	656	638
その他営業外費用	11	15	18	20	22	25	28	30	32	35
5 特別利益	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 特別損失	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
当年度純損益（収益的収支）	830	479	406	341	294	294	228	210	167	168
資本的収支（税込）										
7 資本的収入	3,695	1,986	4,139	3,637	3,529	3,866	3,506	3,053	3,050	2,903
企業債	1,969	1,006	2,038	1,762	1,710	1,892	1,727	1,515	1,527	1,469
他会計繰入金	600	593	441	440	437	410	382	354	327	297
国庫補助金	1,071	364	1,638	1,414	1,363	1,545	1,360	1,167	1,179	1,122
その他収入	55	23	22	21	19	19	17	17	17	15
8 資本的支出	7,089	5,270	7,534	6,978	6,723	6,879	6,321	5,611	5,440	5,180
建設改良費	3,267	1,449	3,759	3,263	3,160	3,523	3,194	2,771	2,795	2,680
企業債償還金	3,814	3,813	3,767	3,707	3,554	3,348	3,118	2,831	2,637	2,491
その他	8	8	8	8	9	9	9	9	8	9
資本的収支	▲ 3,394	▲ 3,284	▲ 3,395	▲ 3,341	▲ 3,194	▲ 3,013	▲ 2,815	▲ 2,558	▲ 2,390	▲ 2,277
資金残高	1,553	1,436	1,092	740	479	342	361	560	868	1,244
企業債残高	47,779	44,972	43,243	41,297	39,453	37,997	36,606	35,289	34,179	33,157
一般会計繰入金	2,870	2,700	2,502	2,466	2,422	2,333	2,284	2,208	2,163	2,111

